

医心 伝心

第69回 富山県医学会開催報告

県医理事 長田 拓哉

平成27年3月15日(日)に、富山県医学会が開催された。医師会理事として本会の企画運営のお手伝いをさせていただく機会を与えていただいたので、自分なりに本学会をレポートさせていただきたい。

平成26年度の本会は69回目の開催となり、富山県医師会を支えてこられた先輩方の熱い想いの歴史を感じさせる。中でも馬瀬大助会長がこの学会に寄せる想いは並々ならぬものがあった。2年以上前から広島や大阪の医学会を見学し、理事会の席上においては、富山県の医療関係者がフレンドリーに交わり、お互いの診療の現状や問題点、そして新しい取り組み等の情報を共有することで、富山県の医療全体が活性化していけるような会にしたい、と何度も口にされた。勤務医部会会長の南里泰弘先生や生涯教育担当理事の清水康一先生が実行委員会の中心となり、学会の内容がまとめられた。学会の構想はしだいに大きく膨らんで今までに経験したことのない規模となり、実務を担当する事務局の面々も初めての事だらけで相当に苦労したと聞いている。しかし「いやー、大変ですわー」と言うその顔は皆笑顔であり、本学会の準備がやりがいのある仕事であった事は間違いない。学会直前の3月12日に開かれた理事会で、馬瀬会長が誇らしげに「医学会のプログラムができました。こんなにしっかりした物になって…」と言葉をちょっと詰ませた時に、ああ本当に良かったなあ、と感じたのは自分だけでは無かったと

思う。理事会メンバーとしての一体感、充実感を味わうことができたひとときであった。

学会当日は晴天で立山連峰が輝いて見えた。北陸新幹線もやって来た。学会も盛況であった。午前中は県内各病院における地域医療・病診連携に関する取り組みについて発表が行われた。発表内容はどれもアイデアに富んでおり、とても参考になった。東京女子医科大学特認教授、岡野光夫先生のランチオンセミナーは、細胞シートに関する最新の研究成果について、動画等を用いた大変わかりやすく興味深い内容であった。iPS細胞と細胞シートが今後の再生医療にとって重要な鍵となっている事が良く理解できた。午後からのポスターセッションでは、28演題の発表が行われた。発表者と発表内容は多岐に渡り、普段聞く事のない分野の話が聞けて楽しかった。ポスターの周りには多くの聴衆が集まり、熱心な討議が行われた。優秀な発表をした9名が表彰されたが、多職種から比較的若い方が多く選ばれており、今後のモチベーション向上につながる期待感があった。

以上、今回の総括として、本当に面白い学会であったと思う。この学会を契機として、富山の医療従事者の交流がもっと深まっていける様、今後も本学会が益々発展していく事を願っている。皆様、来年もぜひ富山県医学会に参加しましょう。